1 研修旅行報告書
日時
研修地
ゆふいんえき

2 目的
質問内容

3 湯布院について

4 会計報告

5 研修実現までの経緯
(1)
日程・地
資料
宿

6 (2)
講師手配

7 (3)
補助金の件

8 行程表

9 田井さんのはなし
(1)

10 (2)

11

12 富永さん

13

14 土屋さんの

15 (2)

16

17 コミュニティマート構想

18 花の木地図
左

19 花の木地図
右

20 アンケート集計

21 原稿依頼
(旅行記)

22 ①
あんどう

23 ②
いのはら

24 ③
上田

25 ④
小川

26 ⑤
松浦

27 (6)
光永

28 <裏表紙>
yufuin

29

30

31

32

森岳商店街青年部活動報告書

平成４年度研修旅行報告書

日　時：平成４年５月16日(土)～17日(日)　１泊２日

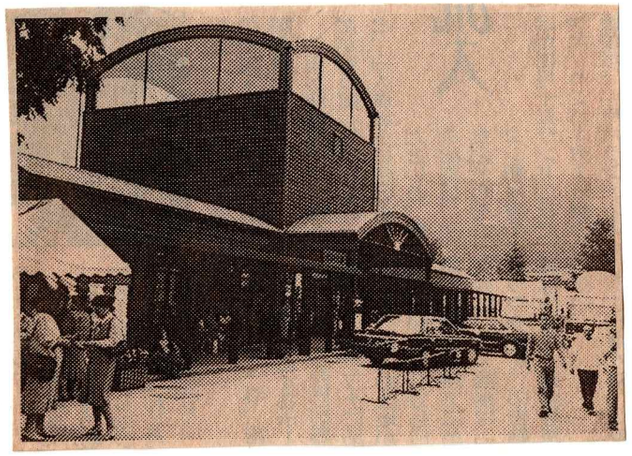
研修地：大分県湯布院町

目　的：街づくり（観光の側面から、商店街の側面から）の研究、視察
　　くわしくは後述

参加者：光永建一　三原一仁　上田文夫　松坂昌應　猪原信明
　　中川恵勝　小川泰一　藤原功　安藤直樹　島田諭一　10名

予定どおりか偶然か、５月のこの日に時間を捻出することの出来た10名のラッキーボーイズは、予想をはるかに上回る収穫を得て森岳に凱旋した。

仕事の都合で参加出来なかった青年部のメンバーへのこの報告が、同時に今後の活動の資料となるよう、ここに報告書を作成します。



著名な建築家磯崎新氏の設計による由布院駅舎は、完成したばかり。次から次に新しい話題を提供する湯布院を象徴する。

島原驛に降り立つと真正面に島原城が見えるように、由布院駅正面には湯布院町のシンボル由布岳が見える。

《講習会資料》……講師の方に事前に提出した資料よりそのまま再録

目的

森岳商店街は、今雲仙普賢岳の噴火で騒がれている島原の駅前を中心とする、(史跡.島原城を含む)商店街であります。

昭和30年頃までは、地域一番の商店街でありましたが、現在は町の中心が約500メートルほど南に移り、さびれている現状に、今回の噴火災害が拍車をかけている状況です。

私ども森岳商店街青年部は、今回の災害を機に、かえって島原は観光地化していくだろうという予測のもとに観光に的を絞った街並みづくりが、森岳商店街活性化につながると考え、いろんな角度から研究を進めています。

街づくりの先進地；湯布院町視察は、その一環として企画されました。観光を主体とした街づくり、および、その街づくりに呼応した地元商店街のあり方を探るのが今回の主たる目的です。

質問内容（聞きたいこと）

- 街づくりを思いたった経緯
- 街づくりの経過
- 発想の原点（メインとなることがら）、ポリシー（考え方）
- 街のセールスポイントを何(どこ)に置いて、どう生かしたか。
- 資金捻出の方法（予算、使ったお金）
- マスコミをどのように利用し、関わったか
- 行政との関わり（景観条例のようなとりきめ、行政指導、行政への働きかけ）
- 事業・イベントの企画運営
- 外部からの入植者と昔からの地元民との連携
- これからの構想（今話題のゴルフ場問題等は深入りしない）

『湯布院』について

「まちおこし」の元祖的存在である湯布院は、マスコミに取り上げられることも多く（年間６０本のＴＶ放送）、若い女性に人気の観光地としてあまりにも有名だ。近年は、全国から「まちおこし視察団」が訪れることも多く、湯布院の観光に一役買っているとのこと。（私たち森岳商店街青年部もその一団体でありますが、「観光協会」の知るところだけでも年間１０００件を超えるという。）

「湯布院映画祭」「ゆふいん音楽祭」「牛喰い絶叫大会」などなど、いろんなイベントもまた湯布院を有名にしている。

大分県最大の温泉観光地「別府」と、昔ながらの温泉郷「天ケ瀬温泉」の中間に位置する盆地の中の湯布院温泉は、独自の路線を歩むことによって生き残り、さらに有数の観光地となりました。平成２年に制定された「潤いのある町づくり条例」は、住民主導で始まった「まちづくり」を行政がしっかりフォローしている表れでもあります。

湯布院の知名度につけ込んで、流行のリゾート開発がやって来て、ワイロをやりとりしてゴルフ場を建設しようとする悪党まで出てきて、つい最近も話題になっていますが、それほどネームバリューのある町なのでしょう。

人口は、12000人ぐらい（島原の約４分の１）で、30年来人口の変化はないが、年々中心部の由布院地区に人口が集中し周辺近郊の過疎化が進んでいる。観光客数は着実に増加している。

◎湯布院の観光客数：入り込み客数(そのうちの宿泊客数)　単位：千人

	S40年	S55年	S60年	H1年	H3年
湯布院	702 (241)	1,850 (434)	2,724 (601)	3,385 (772)	3,800 (980)
島　原		2,285 (411)	2,057 (402)	2,240 (424)	1,060 (270)

資料：「湯布院町政要覧」、「島原市観光客動態調査」、富永等氏の話

No.

Date

研修旅行決算報告　1992.7.3

収入の部

積立金	18000×9人	162,000
親会より		10,000
寄附金	5000×2	10,000
積立金利息		2,835
市からの補助金		109,000
	収入合計	293,835

支出の部

交通費	高速2台×2　車輌借用×2. ガソリン	46,074
宿泊費	1泊2食×10	98,287
食事	5/16昼. 5/17昼	17,716
飲食費	車中のおやつ. 南の風会場. ケルン会場	25,269
返金	11800×9	106,200
青年部会計へ		289
	支出合計	293,835

＊講師へのお礼あみやげ代，ビデオ.写真等資料代は青年部会計より支出いたしました。

＊旅行不参加者には積立分18,000円をそのまま返金

研修旅行実現までの経緯

研修旅行実施の決定

平成３年５月例会で、年間事業の中に研修旅行を入れることに決定。
一人3000円を毎月積立。（不参加者には返金、利息は旅行予算に繰入れ）
※雲仙普賢岳騒ぎで、積立は12月スタート。

視察地、日程の決定。

平成４年４月例会で、視察地「湯布院」、日程５月16､17日を決定。
視察地の決定までにはいろいろ議論もありましたが、例会の活動報告書(H 4.4.9)を参照。結論は、講師に事前に提出した資料の「目的」に詳しいので、再録しました。（２頁目に掲載）

細かい点は企画委員会一任ということで、４月３日は例会後そのまま続けて企画委員会（藤原宅）。役割を分担して４月４日から行動開始。

資料の収集。

市の商工観光課（内嶋さん）経由で、湯布院町の公的資料を、湯布院観光協会（←☎）から観光パンフレット類を、また、各自本などを集めた。

宿の手配

５月の連休明けとはいえ、さすが人気の湯布院の土日では空室がなく、とりあえず国民宿舎「由布山荘」に２０畳の大部屋を確保。「いくら研修とは言っても、あぶらぎった中年に近いおじさん青年とざこ寝はいやだ」と泣きだす輩も出てきて、安藤、中川が電話作戦を展開しました。

「白いブランコ」というペンションは、空室はあるけど１０名を超える団体さんは、他のお客さんの雰囲気をこわすからとの理由で受付けてくれず、「すごいポリシーをもってるなあ」と感心させられるエピソードも生れました。

結局、山小屋風のロッジがある「ペンシオン桃太郎」に巡り合えました。

講師の選定

商工会議所の吉田課長があちこち当たってくださり、湯布院本町商店街会長土屋氏までたどりついたものの連絡不手際で中断。しかしこの時吉田課長が提供してくださった長崎県経済部発行「商店街活性化マニュアル」が、あとで貴重な資料になりました。

「山口屋染物店」の前田孝弘さんが保管していた数年前の田井修二さんの名刺（田井さんは湯布院まちおこしの初期メンバーである亀の井別荘に勤めていて、ゆふいん音楽祭の実行委員長をしていたとのこと）を手がかりに、ひとり目の講師田井さんをつかまえることが出来ました。（今は独立して喫茶店「南の風」のマスター）

前田さんは昨年末、例の「よっていかんかないのぼり」を格安超特急で作ってくれた恩人であり、今回もまたすばらしい人物を紹介してくれました。森岳のみなさんは弁天町の方に足を向けて寝ないように。

さらに田井さんの紹介で、湯布院観光協会に電話、富永等専務理事に講師をお願いすることが出来ました。富永さんは、「自分が観光について話し、もうひとり商店街の人を連れて来ます。」と約束して下さいました。

※この時はまだ３人目の講師が最初に接触を試みた土屋さんになるとは思ってもいませんでした。また、富永さん宛に提出した資料（２頁目に掲載）に、田井さんも目を通してくださっていたことを、あとで知り湯布院の街づくりの主役たちはみんな連繋を取りあっているんだなあと思ったわけです。

かくして、３人の講師を決定することが出来ました。

◇街づくりについて（イベント事業の側面から）
　ゆふいん音楽祭事務局長　田井修二氏

◇街づくりについて（観光の側面から）
　湯布院町観光協会理事　富永 等 氏

◇街づくりについて（商店街の側面から）
　ゆふいん花の木通り商店街理事　土屋誠司氏
　（ゆふいん花の木通り商店街は湯布院本町商店街の改称）

補助金の件

資料集めの過程で、市の商工観光課の内田さんが、災害復興基金の中から補助金が出来ましたから申請をしてみてはと勧めてくれました。

『森岳商店街の活性化、森岳独自の街並みづくり』は、本当の意味で、災害復興後の島原にとって、私たち森岳商店街青年部の出来る最も大きな貢献策であるという自負があります。

しかし、これは私たちにとって前々からの永年の課題であって噴火災害があっても無くても取り組んでいることであります。そういう意味で災害と直接の因果関係はありません。市の補助金が、文字通りの（敢えて言えば目先だけの）災害復興策にだけ適用されるのであったなら補助は受けられなかったでしょう。

偶然とはいえ、今回の補助金は、（決算書をみてわかるとおり、おおいに負担が軽減される結果となりましたが、）知らないでいて良かったというのが正直なところであります。もし、この補助金の情報が４月の例会前に聞こえていたら、はたして視察地を湯布院に決定できたでしょうか。

実際、阿蘇、鹿児島の案もでていたのだから、あそこで、誰かが「＊＊なら補助金がまちがいなく出て安くなる」と言ったならば、今頃鹿児島のレポートを書いているかも知れません。

そして、この補助金のようなことは今後の商店街活動に必ずついてまわる問題で、あたりまえのことですが、本当にやるべきことを見失わないようにしなければなりません。金が出るからやるのではなく、やることをやって金を出してもらう。これが補助金や高度化資金のとらえ方だと思います。

行程表

平成４年５月１６日（土）

正午	島原市役所前集合 商工観光課に挨拶		
１２：１５	先発隊６名出発　後発隊、市職員（田島課長他）見送り		
１３：３０	昼食（浜勝）		
１４：２０	諫早インター通過 金立ＳＡ 山田ＳＡ	１５：００	後発隊４名出発
１６：２０	日田インター通過	１６：３０	川登ＳＡ　昼食
１７：５０	湯布院着 喫茶店　南の風 ゆふいん音楽祭事務局長 田井修二氏の講話 湯布院駅周辺視察	１８：２０	日田インター通過
１９：１０	ペンション桃太郎着	１９：１０	湯布院着 町内視察
１９：３０	夕食	１９：３５	ペンション桃太郎着
	合流	１９：４０	夕食

平成４年５月１７日（日）

８：００	朝食
９：００	チェックアウト 湯布院観光
１０：００	花の木通りプラザ２Ｆ会議室にて講習会 観光協会監事　富永　等　氏 花の木通り商店街理事　土屋　誠司　氏
１２：１５	昼食 湯布院（商店街付近）視察 クアハウス健康温泉館
１５：００	湯布院出発 先発隊　６名 後発隊　４名 ２１０号線崖崩れの為渋滞
１７：４０	後発隊着
１８：１０	先発隊着　合流　（川登S.A）
	反省会の打ち合わせ
２０：１０	島原着
２０：２０	喫茶店ケルン 反省会
２１：３０	解散

はじめに思いありき

ゆふいん音楽祭事務局長
田井 修二さんのお話

会場は田井さん自らが経営する喫茶店『南の風』。昔あったうどん屋をそのまま利用改装した舶来お土産品店併設のお店。舗装されていない真中に１本、木の生えた庭が駐車場になっている。　場所は駅前通り、島原でいえば光永さんところか、名門さんところあたりの一等地。

田井さんは福岡県出身42才。昭和55年から『ゆふいん音楽祭』に参加。湯布院に移り住み、亀の井別荘を経て、現在にいたるまで湯布院観光に関わりながらつい最近今のお店をオープンされた。

昭和50年４月の中部地震で壊滅的な被害を受けた湯布院は、そこから出発した。半壊したホテルで音楽（クラシックコンサート）を！と観光協会主催で、８月『第１回ゆふいん音楽祭』がスタートした。初年度四十ちかいイベント（当時は興業と言っていた）を打って、生き残っているのは、この音楽祭と『牛喰い絶叫大会』。そして翌年（こちらは実行委員会方式）いま最も有名な『第１回湯布院映画祭』が始まった。

※雲仙災害を対比して、こんなふうに話しを切り出された田井さんは、私たち森岳商店街青年部に、この災害を機に、くじけることなく頑張れとの気持ちを託された。

田井さんは、観光協会主催から実行委員会形式になった『第６回ゆふいん音楽祭』から参加。

こうしたイベントが定着するまでには十年かかった。行政の協力はなかった。イベントを成功させる秘訣は、まず夢（思い）から出発すること。コンサートをやって聞いてもらいたいという思いがあって、イベントが具体化し、それに応じて必要な金だヒトだを見つけだす。核になる人間が３～５人いれば出来ますよ。補助金を当てにしてまずイベントを組むところからスタートするというやり方で長続きするはずがない。「はじめに思いありき！」ですよ。

音楽祭は、毎年解散して、毎年やりたい者が「この指とまれ」で実行委員会を組織してやっています。「この指とまれ方式」と言ってます。出演者はずーっとノーギャラです。

新住民と昔からの住民のこと、観光のこと、マスコミの問題、湯布院の十代のこと、話は多岐にわたりました。この間、「正の字」をつけていたわけではないが、しきりに「思い」とか「夢」とか「情熱」とかの言葉が登場しました。

過去１０回以上大きなイベントを実行してきた人が、（私たちの感覚で言えば）「実行」と縁遠いような「夢」や「思い」を強調されたのである。やる人間の「思い」これが最重要ポイントであって、金とかヒマではないし、ましてや行政の援助でもないのであります。

観光面について興味をひく話も多かったので二、三列記します。駅前で観光客をつかまえて、「あなたは湯布院は何回目ですか。」のアンケートをとると、２回目、３回目、□回目と答えるリピート客が５６パーセントを占めるという。

この理由には、例えば美術館５～６軒を含めて、湯布院には喜ばれる場所が14～17カ所ある。そこは人（スタッフ）の魅力で成り立っている。「人」に会いにお客さんが何度も来てくれる。ディズニーランドやハウステンボスに「人」に会いに行く人はいないでしょう。

（大分～）別府～日田間の高速がつながると、人が都市部に吸い寄せられる、いわゆるストロー現象が予測される。でもストローは一方通行じゃないんだから『逆ストロー現象』だって可能なはず。都市部にない魅力があれば逆に商圏が広がったと考えていいはずだと思って頑張る。

などなど多忙な田井さんを目一杯拘束したという次第。今は、「ゆふいんの自然と環境を考える会」をボランティアではなく「思い」でもって運営されている。私たちのわずかばかりのお礼金は、そちらの運営資金に当てさせていただきますとのこと。「ゆふいん環境新聞新花水樹」を頂戴してきました。

自分たちが主導権を握る

湯布院町観光協会理事
富永等さんのお話

年間1000件の視察。60件のテレビ放映。湯布院が、いかに有名かを物語っている。年間３８０万人の入り込み客数のうち９８万人が宿泊をする。団体旅行（修学旅行）ではなく、家族や小グループに適した旅行地。目的をもった旅が似合い、若い女性客が多い。

８０軒のホテル（宿）があるが、９０軒ぐらいで制限して、それ以上増やさないようにしている。そんなことができるのか？湯布院の観光のこまごました配慮、取決めは全ホテル旅館の属している観光協会が仕切っている。多額と思える拠出金も、結局は自分たちの利益につながるから支持されている。観光協会には町からの援助は一切ない。法的に（行政上）問題がなくても観光協会が「うん」と言わなければ客室ひとつ増築出来ないのである。

左手前 土屋さん 右奥 富永さん

行政に何かを求めると云うような姿勢ではなく、個々のホテル旅館がとにかく自分でなんとかしようと考え、団結して（観光協会）自分たちで、「湯布院らしさ」まで演出しようとしている。その結果、例えば駅前の原色看板を排除したり、田園風景を創出するために「積みわら」を置いてくれる農家に報奨金を出すような芸のこまかいことまで出来るようになっている。

まさに一朝一夕で出来ることではないが、自分たちが主導権を握り、自分でどうにかするんだという姿勢があれば、何でも出来るんだなあという印象を受けた。

あまりに理想的な組織を見せつけられて、ここまではとても出来ないかなと思いたくなる点もあったが、富永さん自身は、おごることなく、「湯布院よりずーっと自然を大切にした理想的な観光地は、信州あたりに行けばいくらでもある。」と、初めから湯布院が一番だとはおっしゃらない。それらに負けないために、人づくり（もてなしづくり）に力を入れ〈人の魅力で勝負！〉、最近は、食文化の掘り起こしに努めているという。

湯布院の町の印象は「完成」した感じではなく（ハッキリいえば雑然としてバラバラ）、しかし少しずつ確実により良い方向に成長していくという「未完成の魅力」が感じられる。そしてそうしたエネルギーを支えているのは、富永さん（あるいは田井さん土屋さん）たちの、けして最高ではない湯布院を良くするための最高のやる気はあるんだという自負であると感じたのは筆記者だけではないはずだ。

おどろくべき練金術＝法人化が前提

本町商店街協同組合相談役
土屋誠司さんのお話

終始笑顔で、歯切れのいい語り口の土屋さんは、１２年間の理事長職（商店街会長）を退いて、この春から相談役ということだが、まだ４０代前半だ。資料を片手に、具体的事例とともに、ゆふいん花の木通り（本町商店街協同組合）の足どりを紹介してくださった。

花の木で一番元気なのはフラワーズと呼ばれる婦人部ということで、各店の従業員まで含む女性軍が展開してきた花いっぱい運動が原動力になって、昭和５４年に法人化、５８年にカラー舗装。

商店街活動が活発化したきっかけは、昭和５９年の産経商業賞の全国中央会長賞で表彰を受けたこと。ハード面の充実した全国の有力商店街に互して、本町商店街は組織運営のおもしろさというソフト面での受賞であった。向こう三軒両隣りを一単位の五つの班分けが基本、班を巧みに利用して協力競争をする。さらにフラワーズ、青年部、親会、顧問会の横割組織が絡み、いろんなルートで情報を流し意志の疎通を図る。

おどろくべきは、いろいろな事業をほとんど自己負担無しに近いところに持ち込んだ、そのやり方である。カラー舗装においては、市の補助金と、国民年金の団体徴収手数料、および水道料金の一括徴収手数料などで乗り切った。

昭和６２年には、中小企業庁のコミュニティマート構想モデル事業の指定を、おとなり二つの商店街を巻き込んで、取り付け、構想策定は補助金でまかなっている（別表）。

６３年（平成１年）、平成２年にかけてのこの事業は、中小企業庁の広域施設整備事業の高度化資金を利用。共同施設に関して、２分の１補助金、残り８０パーセントは無利子の１５年償還という好条件のため、いくつかあった計画を、いっぺんにやってしまった。花壇を配した道路整備、１３０台の駐車場、コミュニティホール花の木プラザの建設である。

総工費１億3500万円の大事業が、わずか３０件のお店がそれぞれ月6000円程度の負担で済むのである。（１２年間）。6000円は駐車場１台分ではないか！私たちが話をうかがったこの３階建てのしゃれたビルもこの事業で出来上がったのだ。

無論、駐車場の地権者に１０年間説得を続けたこと、道路の対面交通を一方通行化する調整に３年かかったこと、プラザの土地取得の苦労話など、一筋縄じゃいかなかったようだが、まさに継続は力なり、思い続ければ出来るものだ。

この中小企業庁の広域施設整備事業の高度化資金は、今は３分の２補助、残り８０パーセントは５年据置きの無利子１５年償還の２０年払いとさらにいい条件になっている。

平成３年３月、県の中小商業活性化基金に対する助成制度で、３００万円をイベント費として助成を受け、「ゆふいん花の木通り」の改名キャンペーンを展開。さらにこれまた中小企業活性化基金５００万円をもらって街作りの計画を練る。

平成４，５年度は中小企業庁の施策で中小小売商業近代化事業の適応を受け、個店の店舗改造に踏み切る計画だ。加盟店の半分または１５軒以上が、街並みに合わせて、一斉に改造建て替えをすれば、費用の８０パーセントが無利子の２０年払いで借りられるのだ。

ややこしい名前の制度が並んだが、その気になればいろんな助成金があ

ることだけはわかった。ただし、それもこれも法人化されていることが前提である。いくばくかの出資金をだし、立場を明確にして再編成された責任ある組織（法人）でなければ、おいそれと国民の税金はまわって来ないのも当然ではあるが……。今後商店街の中で商売を続けていくならば、ぜったいお得な「法人化」である。法人化研究委員会（別名；公金運用委員会）の藤原君の目がきらりと光ったのはいうまでもない。

自分たちの無知にあっけにとられていた私たちに、最後にもう一言といって口を開いた土屋さんの言葉は、中途半端な激励でも、雲仙に対するお見舞でもなく、「中小企業庁の商店街活性化アドバイザー制度を利用するといいですよ。中小企業事業団から、３回まで無料で専門家を派遣してくれますから、法人化のことなど指導を受けるといい。商工会議所が窓口ですよ。」と、あくまでも具体的な助言であった。

<別表>

●事業計画

事業名	事業主体	規模	事業内容
新町ショッピングモール整備	町・駅前中央	駅前通り 150m	由布院駅から見る由布岳のながめを生かすため建物の軸線をそろえる。
	県・町・新町	新町通り 550m	現況の交通体系のままであるが若干歩道を拡幅する。歩道・車道の段差を最低限にする。商店街の連続性を欠くところは積極的に緑化・緑豊かな通りにする、など。
本町通り整備	本町	本町通り 300m	車道に島を配置。車の動線を蛇行させスピードを出せない通りにする。島は段差をなくし、歩行者のちょっとした溜まりの空間となるようにする。この島には街路灯やベンチなどを設置する。
駐車場整備	本町・新町	本町 2,827㎡ 新町 940㎡ 駅前中央 1,800㎡	三商店街それぞれの特性に応じて、利便性の高い駐車場を確保する。駐車場は湯布院らしく緑と水の豊かなイメージのものにする。
乙丸会館前ポケットパーク	新町	640㎡	駅前地区のシンボル空間として整備。商業地の憩いの場として多目的に利用され、人々が集まるような場所にする。
駅前広場整備	町・JR	1,900㎡	高木・中木の植栽を行い湯布院の自然を表現する。
駅舎の改築	JR	現敷地	町の玄関としてシンボル性の高いものである。そのことを配慮した外観のデザインにする。
生活工房実験室整備	本町	—	個店それぞれの生活工房化を共同で考え、実践していく。生活文化の情報拠点づくり、システムづくりに主眼をおく。

コミュニティーマート構想

構想のねらいは、商店街を買い物の場から「暮らしの広場、生活・文化の場」に変えようというもの。中小企業庁が昭和59年から〝まちづくり〟の手法として打ち出した。モデル地域の構想設計だけで最高五〇〇〇万円の助成がある。

町の中心部にある三商店街（本町・新町・駅前中央）がこの指定を受けて取り組んで来た。

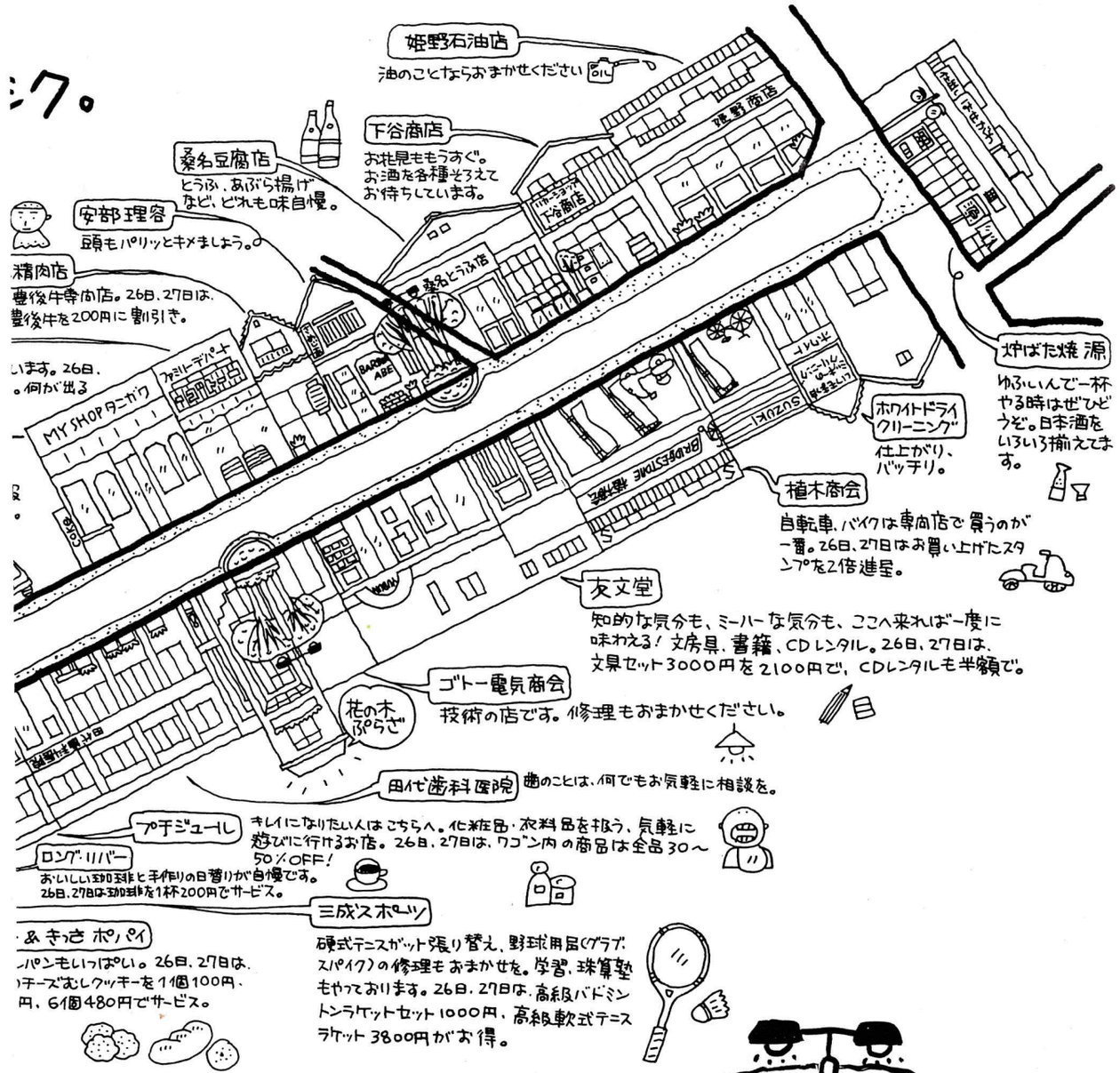
現在、商店街の法人化が終わり、三商店街連絡協議会の元で一体となった事業展開がなされている。

事業の内容は別表の通り。新町のショッピングモール整備や本町の駐車場整備、乙丸公民館前ポケットパーク、生活工房実験室整備事業は平成7年までに完成する。

このほか第二期計画では、店舗の改修や独自商品の開発、横断道路への連絡道整備、駅周辺の駐車場整備などを予定している。

ひと・マチ・笑顔、咲いてます

ゆふいん花の木通りをヨロシク。



92，6，3研修旅行報告会アンケート結果　（12枚回収）

※今後の森岳商店街青年部活動の参考にしますので記入提出ください。
〈丸で囲む（複数可）か、記入する。〉

◇きょうの企画は研修報告）はどうでしたか？

おもしろかった。6票　参考になった。5票　いまいちだった。1票

気がついたこと：親会の人にも来てほしかった。旅行に行かなかった人も4～5名来てくれてよかった。もう少し資料をまとめておくべきだった。総会(親会)で反応がよかったわりに親会の人が参加していなかった。残念。

◇次回の研修旅行には、

是非参加したい。10票　時間があれば参加したい。2票　気が進まない。0票

研修希望地：熊本。新しい町づくりをした所ならどこでも。どこでも。検討中。

◇今後の森岳商店街について

いまのままがよい。0票　島原(半島)の中心的商店街にする。3票

観光に的をしぼった商店街にする 6票

具体的な意見や案をお聞かせください。：現状を活かしての活性化を。ハード・ソフトの両面から活気ある商店街。毎年1つずつ新しいことをやっていく。当面は自分たちなりの商店街でよい。情熱や夢が中年に有れば青年以上の大きいことが出来る。観光のみにこだわらず息の長い商店街となるように！島原といえば城の近くにある森岳商店街だ！

◇今後の森岳商店街青年部に期待すること

親睦を深める。3票　もっと勉強を。3票　イベントなど具体的活動を。5票

親会との連絡協調。2票　市全体に対する奉仕。0票

長期展望にたった計画。6票　個々の店の発展。5票

ひとこと：早く行動を起こそう。いろいろやろう。商店街の活性化が個々の店の活性化につながる。情報を集めて整理して記録を残す。PR活動をうまくする。実行することです。一人一人が参加することが大事。

各位

1992,6,29

旅行報告書の原稿依頼

研修旅行の反省会は終わりましたが、報告書がまだでけません。
ちかごろ、言いっぱなしで、「誰か記録しちょるじゃろね。」という悪しき風習が生れつつあります。
記録を残すという簡単なようで、やっぱり実は簡単なことをやりませう。

つきましては以下のテーマで一筆お願い致します。

「湯布院で見たり聞いたり感じたりしたことで、今後の森岳商店街（青年部）で役に立てられそうなこと、とり入れたいことはなにか。」

約束ごと：Ｂ４（この紙の大きさ）か、４分の１か、２分の１（右頁全部）
言いたいことを一言で表すタイトルをつける。
書いたものをそのままコピーするので上下左右に余裕をとる。
薄い鉛筆はダメ
企画委員会 松坂(62-4414)に、７月２日までに提出。

タイトル　明るく ゆっくり歩ける街並

氏名 安藤 直樹

花の木通りを歩いてみて感じた事になるが、黒っぽいアスファルトの道路に比べて、うすい色のカラー舗装は、それだけで明るい印象を与えてくれた。歩道は必要なくてもカラー舗装と、じゃまな電柱を埋設し、広々とゆったり歩けるという道路にしていきたい。
花の木通りはスピーカーを街路灯に付けて、音楽を流せる状態にしてあった。音楽も例えば、朝はクラシック（バロック調）だったり昼はポピュラー音楽、夜はゆったりジャズ音楽が流れるようなメリハリをつけて、「森岳は歩くだけでも気分が落ちつく」と言われる様な通りであってもいいと思う。
花を左右交互に植えて蛇行させる事は難しいので、ドライバーにゆっくり走る様に促す標識を立てて、「信号青」を見て急いで走りぬける事がなくなれば、危険も少なく、子供も親も心配なく歩ける通りになるのではないかと思う。

タイトル ああ．野麦峠…

氏名 猪原信明

砂漠の上にラスベガス．大村湾にハウステンボス．
ひなびた盆地の温泉に湯布院国際映画村….
たまたま．常識や社会通念を無視するような突拍子もないアホが
おって．そのアホの脳裏に浮かんだ風景やイメージや夢が．
そのアホの情熱やエネルギーで現実のものとなっていったのですから．
やはり"アホ"はすごいと思います。
我々は．そのようなアホにはなれないし．島原や雲仙に．
ラスベガスやハウステンボスやディズニーランドを建てようとは
思っていませんが．もっと堅実でささやかな夢ぐらい
持ってもバチはあたらんと思います。
湯布院をそのまま島原に持ってくる訳にはいかんし．元々．素材が
違うので．料理方法も違ってくると思います。
今回の研修旅行で痛感した事は．知識・データー不足です。
知識やデータがないから．それを元にしたイメージが
何も湧いてきません。どこかの猿真似でもなく．時代に
流されるのでもなく．この街の未来にかなった「なるほど…」
とうならせるような．そんな街にしたいけど……
湯布院が30年かかったのだから．あと30年位みんなで
がんばらんといかんのでしょうなあ。
それと．もう一つ．湯布院は．各々の業界どうしが．よく
まとまっているようです。あそこまで「あ．うん」の呼吸に
なるまでには．かなり腹を割った話し合いの過程があったの
でしょう。毎日、仕事と家庭にふりまわされて．うんざり
していますが。がんばりましょう。
タイトルの「ああ．野麦峠」はなんの意味もありません．あしからず。

タイトル

氏名 上田文夫

森泉商店街青年部！
活動を初めてから3年目，最初は何をすべきか話も
わからなかった．だがとにかく集まって話そう．
そのうち毎月会合を集め研修旅行をすることになった。
当日
雲りの天気の中 市の観光課の人達に送られ 会員の
車をかり出発した．諫早で昼食
高速に乗り途中SA等に寄り1時間ほど遅れて
湯布院に当着
さっそく町作りの指導者，音楽祭実行委員長の田中さん
にいろいろと話を聞いて見た．丁度PM6:00頃が
だったか約1時間半ほどお話をうかがった．
翌日 湯布院観光課長，花の木通り前商店街
青年部長との話に入った．2時間ほどの話のあと
湯布院駅と花の木商店街の見学
まず驚いたのはあの小さな町（今は有名だが）で駅
の建物のりっぱなこと下は美術館である
商店街も湯布院町といういなかの感じかな．自然
にとけこんだ町作りであった。とにかく前日泊まっ
たペンション桃太郎もなかなかふんい気のよい
所であった
・自分の町は自分達で守る
・この町独特のいなか（自然）のふんい気をそのまま残す．
（補助金を出してでも）
・新しく来た旅館等は商売的な物にかんして敏感である
時代の流れでもあろうが非常に静かでゆっくり出来る
まち
弁当屋の方々がよく言うバカ売めれる所とはこのこと
でしょう
町全部がいい町にしようという気持がよく感じとれた

タイトル　絵に描いた餅でなく!!

氏名　小川泰一

湯布院に行ってよかった。これが私の率直な、気持である。今回は、そう思った要素を、いくつか箇条書きにまとめてみよう。

① 商店街の人達が生き生きしてみえる。!!
（大きな一つの目的（住みよい街並作り）（にぎわう商店街作り）のために努力したことが一つ一つ実をむすんできているので、みんながニコニコしている。）

② 湯布院最大の売り物は、ただ単に「自然」というだけだった。
（田舎もんは、田舎の田園風景をみても、あたりまえすぎて感動しないが、都会から来た人は、やたらと感動する。島原人だったら、あまり自慢しないことだろうが、湯布院人は自慢する。でも、ひらきなおってアピールすれば、客は、来る。本当に来る。）

③ みんなが、まとまれば、資金は、うそみたいに、湧水のように出てくる。
（森岳商店街が、今後、法人化した組合になれば、国や県のお金を、$\frac{1}{2}$補助（ただでくれる）とか30%の補助とか、20年間無利子返済とか、便利な制度がある。湯布院の人たちは、それを上手に使い、島原の人は、そんなことも知らずに、ただ、「ヒマだ、ヒマだ」と一日をすごしている。）

④ 将来店のあとつぎがいなくて、店をたたんでしまうかもしれない方がいても御安心下さい。森岳商店街は、今後島原で一番にぎやかな商店街になります。そうすれば、店舗を、賃貸しても入居者に困ることなく素敵な、隠居暮らしが出来ます。

タイトル　私たちにも出来るかもしれない！

氏名　松坂昌應

経営についての講演会とか、先進地の視察とか、成功者の経験談とか、いろんな話しを聞いて、1つ2つヒントをつかめば、ヨシとして、大筋においては「それは都会ならできるだろう」とか「島原には、あてはまらない」とか、「島原には良くても森岳商店街の個々に店にはむしろマイナスだ」とか、「うちみたいなろくヤン小企業では考えられぬ」とか…否定的な感想を持ってしまうことが多い。

ひょんなことから、観光客もよろこんで歩きたくなるような城下町風情の森岳商店街、お堀側のまわりにはゆったりとしたジョギングコースと遊歩道（車は一方通行）。電信柱はみんな地下に埋まって、上の町の通りにはきれいな清水がところどころ湧いている。地元の人も歩きたくなる。必然的に観光客によろこんでもらえる、おみやげ店、喫茶店、たべものやさんも出店してくる。etc etc…そんなふうになれば、私たちも気もちよく商売ができるなあ……などと、勝手なイメージをふくらましたら。森岳のみんなも（かんたんには折りあわないけれど）それぞれに、こうなればいいなというイメージを持っていた。

それじゃ「夢」を語ろうといいながら（もちろんその一方で出来ることから少しずつでも良くしようと）森岳青年部の中で「街並みづくり」の話題がとりとめもなくふくらんできた。そして湯布院に行った。

帰路におけるみんなの話題は、私たち（森岳商店街）はどんな形で法人化しようかとか、自己資金をどんなふうに拠出しようかとか、やたらに具体性を帯びた話で、「湯布院だから出来たけど、島原じゃね……」のような否定的な感想は聞かなかった。「花の木にできたことが出来ないはずはない。」と。若手後継者の数に恵まれ、歴史的な大修事雲仙噴火のあと、いやでもどうにかせねばならないという情況、観光設備に恵まれた立地。私たちひとりひとりが「私たちにも出来るかも知れない」と思った。この感触は重要な事件だ！　10年この気持ちを持続していられたら、とんでもないくらいおもしろい商店街がここに実現するだろう。

タイトル 湯布院その発展

氏名 光永達一

湯布院とゆう温泉町は他の温泉町とは違い
近くに別府とゆう大温泉地をかかえている為
独自の温泉町として発展せざるをえなかった。
湯布院は少人数の旅行者とりわけ女性を対象
とした客をターゲットにしぼり、他の温泉地のように
ケバケバした町ではなく、静かな田園風景を
のこし、もう一度湯布院に行ってみたいと思わ
せる温泉地である。
その変化せざるをえなかったのがやはり災害が
起点となっている。今後島原も雲仙普賢岳災害
をきっかけとし、なんらかの形で島原(森岳商店街)
を大きく変えて行かなければならない。
その為には商店街会員の気持が「なにかせねば」
と思うようにならないとだめである。その気持が
一つになった時湯布院以上の発展をとげる
であろう。